

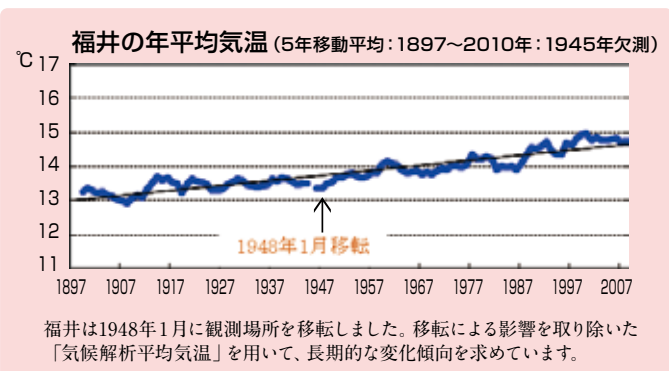
“ふくい”

から見る 地球温暖化



気温が高くなっています

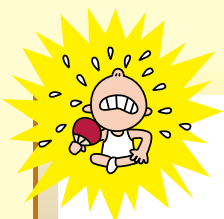
世界の年平均気温は100年あたり0.68℃、日本では1.15℃上昇しています。
 福井の年平均気温は、観測を開始した1897年から100年あたりで1.46℃上昇し、世界、日本の上昇率を大きく上回っています。
 特に、秋季の気温上昇が1.76℃と大きく、このことは、残暑が厳しくなり、また、冬の訪れも遅くなってきていることを現しています。



季節別・月別の100年あたりの気温変化(℃)

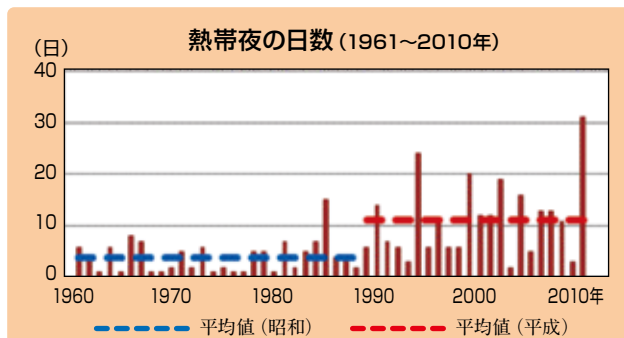
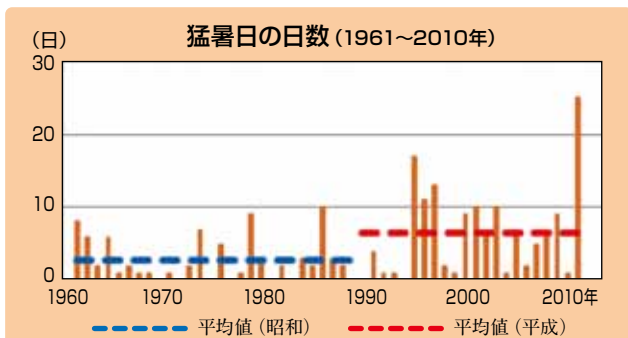
春季			夏季		
3月	4月	5月	6月	7月	8月
+1.15	+1.91	+1.79	+1.24	+1.12	+1.92
+1.62			+1.43		
秋季			冬季		
9月	10月	11月	12月	1月	2月
+1.73	+1.87	+1.67	+1.19	+0.59	+1.65
+1.76			+1.15		

※月平均気温(1897~2010)の5年移動平均の回帰式から算出(福井地方気象台の観測データより作成)



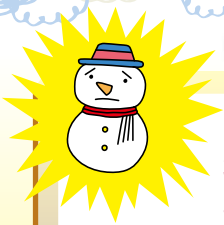
“夏”がますます熱くなっています

猛暑日(日最高気温35℃以上)や熱帯夜*の日数が増加するなど、福井の“夏”が熱くなっています。
 1961~1988年(昭和)に平均2.8日/年であった猛暑日の日数は、平成になって平均6.5日/年と2.5倍に増加し、熱帯夜の日数も、平均4.0日/年から平均11.2日/年と3倍に増加しています。



*熱帯夜とは、本来、夜間の最低気温が25℃以上を言いますが、ここでは便宜的に日最低気温25℃以上とします。

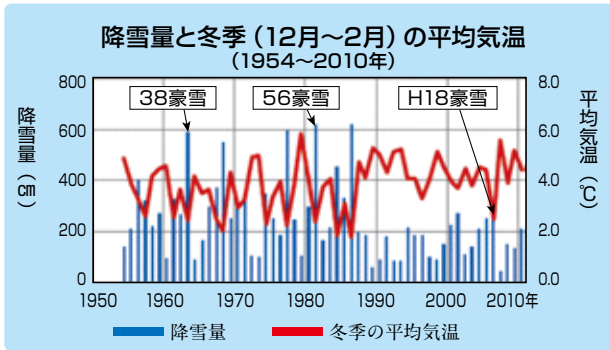
(福井地方気象台の観測データより作成)



雪の降る量が少なくなっています

福井に降る雪の量は、1988年以前（昭和）には平均298cm/年でしたが、平成になってからは平均165cm/年と約半分（55%）に減少しています。雪の降る量が少なくなって、屋根の雪下ろしや道路の除雪の手間が少なくすみ、生活しやすいと感じる人が多いかもしれません。

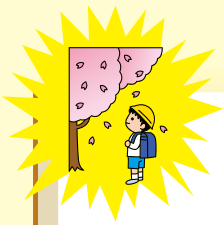
しかし、山に降る雪の量が減少すると、雪解け水が少なくなり夏場の渇水が懸念されます。また、スキー場のオープン期間が減少するなど地域経済にも大きな影響が現れます。



平均降雪量と冬季（12～2月）の平均気温（福井）

観測期間	平均降雪量	平均気温
1954～1988年(昭和)	298cm	3.6℃
1989～2010年(平成)	165cm	4.4℃

（福井地方気象台の観測データより作成）

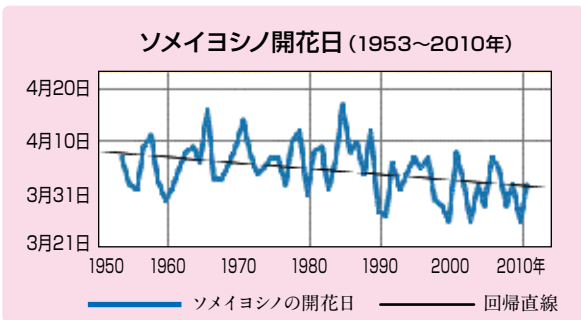


“さくら”の開花が早くなっています

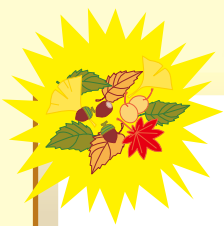
さくら（ソメイヨシノ）の開花が全国的に早まっています。

福井市では、ソメイヨシノがこの50年間で5.4日早く咲くようになりました。

「ソメイヨシノ」と言えば入学式に咲いているイメージがありますが、このまま開花が早まると、卒業式に見られるようになってくるかもしれません。

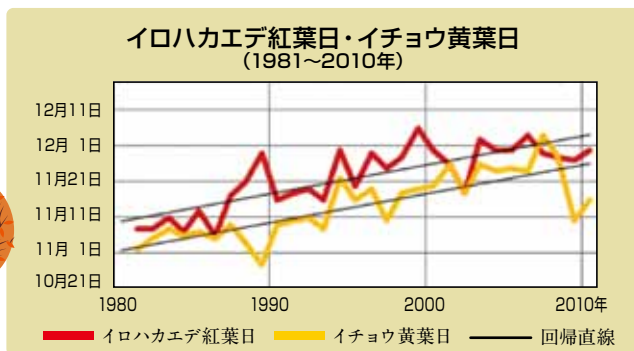


*開花平日：4月5日（福井地方気象台の観測データより作成）



“イロハカエデ”の紅葉、 “イチョウ”の黄葉が遅くなっています

福井市では、イロハカエデの紅葉やイチョウの黄葉が、この30年間で24日も遅くなり、12月頃になってようやく色づくこともあります。12月と言えば、私たちは“冬”をイメージしますが、植物は、わずかな気候の変化を敏感に感じとり12月上旬はまだ“秋”だと感じているようです。



30年間で
イロハカエデの紅葉は24.2日、
イチョウの黄葉は24.1日、
遅くなったよ

*イロハカエデの紅葉平日：11月19日
*イチョウの黄葉平日：11月10日
（福井地方気象台の観測データより作成）

“米(コシヒカリ)”や“梅”の品質に影響が現れています



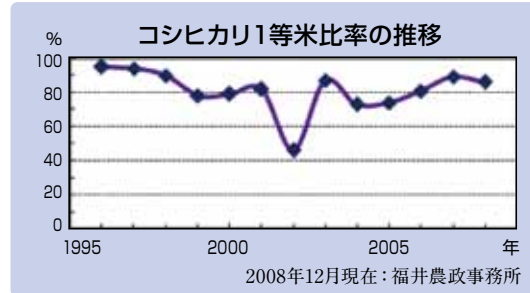
おいしいお米「コシヒカリ」の発祥の地である福井県では、近年の気温上昇により1990年代後半以降、コシヒカリの出穂期が早くなる傾向にあります。

コシヒカリの5月初旬植えは、出穂後が高温の影響を最も受けやすい時期になることから、乳白米等の白未熟粒、胴割米、斑点米の発生が増加し、品質に影響が現れています。

近年、最も品質の良い1等米の比率に低下傾向が見られます。

福井県の特産ブランド品である「福井梅」は、“種が小さく果肉が厚い”良質の梅として全国的に高い評価を受けています。

しかし、近年の気候の変化により、その品質の低下が懸念されています。6月上中旬の高温・乾燥（空梅雨傾向）により果実肥大が急激に進み、その後の降雨により急激な吸水が起き、果実細胞間の亀裂による“樹脂障害果（ヤニ果）”が発生しやすくなっています。



樹脂障害果（内ヤニ）

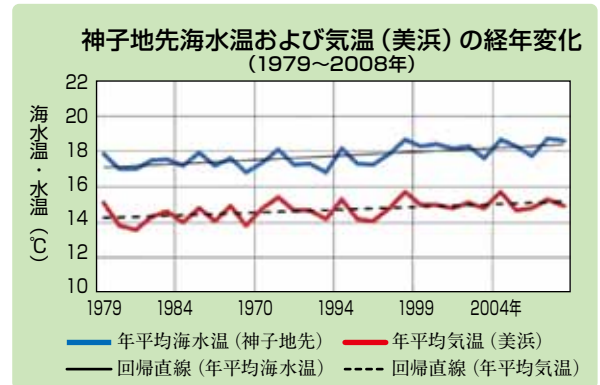
【「ふくいアグリネット」等の情報より作成】

海水温が上昇しています



福井県水産試験場が観測している若狭湾東部海域の若狭町神子地先の年平均海水温（表層）は、1979～2008年の30年間で約1.3℃上昇しています。

若狭町神子地先の海水温（表層）とアメダス美浜観測所の気温は良く似た上昇・変動を示しており、海水温（表層）と気温との間に強い関連があることを現しています。



熱中症の増大が懸念されます

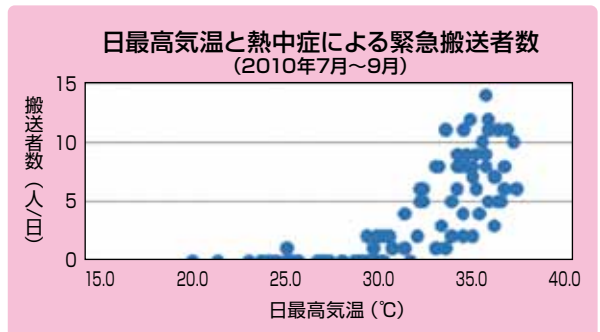


2010年は全国的な猛暑で、熱中症で医療機関に緊急搬送される人が全国で急増しました。

福井県でも、8月に猛暑日が連続し、7月～9月の熱中症の緊急搬送者数は375人（うち死亡者2人）で、統計を取り始めた2007年以降、最多となりました。

熱中症による緊急搬送者数は、日最高気温が30℃を超えると増え始め、日最高気温が高くなるに従って多くなる傾向にあります。

今後、夏季の気温がさらに上昇し猛暑日が増加すると、熱中症の危険性が增大することが予想されます。



（データ提供：県危機対策・防災課）

このように、地球温暖化は私たちの身の回りに迫っています。地球温暖化の影響により、干ばつや食糧危機に瀕している国もあります。

それでは、地球温暖化を起こしている原因はなんなのでしょう？

それは、私たち人間が電気をつかったり、車に乗ったりするときに排出するCO₂（二酸化炭素）が大部分を占めています。

CO₂は地球をくるむ毛布のような役割となり、その濃度が大きくなると、地球表面で反射した太陽光が宇宙空間へ放出されず、大気を暖めます。

これが**地球温暖化**です。

どうしたらCO₂を減らせるの？

	取 組 例	年間節約金額	年間CO ₂ 削減量
①温度調節	エアコン1台の冷房温度を27℃から28℃に設定する	670円	11kg
	エアコン1台の暖房温度を21℃から20℃に設定する	1,170円	20kg
②節 電	54Wの白熱球をつける時間を1日1時間減らす	430円	7kg
	テレビを見る時間を1日1時間減らす	700円	12kg
	寝る前にはコンセントを抜くなどし、待機電力を50%減らす	3,140円	53kg
③節 水	シャワーを1日1分家族3人が減らす	9,000円	87kg
	洗濯物はまとめて洗濯する	3,950円	2kg
④自動車	ふんわりアクセル(5秒間で20km/h程度に加速)を行う	10,030円	194kg
	加減速の少ない運転を行う	3,510円	68kg
	30kmごとに4分間アイドリングストップを行う	2,080円	40kg
⑤省エネ商品	54Wの白熱球を12Wの電球型蛍光灯に交換する	1,850円	31kg

(出典: (財) 省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典 2010年度版」)

など、私たちの周りにはまだまだたくさんの「省エネ」があります！

一人ひとりの力は小さくても
みんなで取り組めば大きな力になります。
みなさんの県民運動へのご参加・ご協力をお願いいたします。



調査・研究(問合せ)

福井県衛生環境研究センター

TEL.0776-54-5630 FAX.0776-54-6739

E-mail:eiken@pref.fukui.lg.jp

発 行

福井県安全環境部環境政策課

TEL.0776-20-0302 FAX.0776-20-0679

E-mail:kankyou@pref.fukui.lg.jp

平成23年3月

こどもチェック

福井県地球温暖化防止活動推進センター

検索